

第 1 6 期 第 7 回 八尾市図書館協議会会議録

平成 2 2 年 2 月 1 9 日 (金) 午後 2 時 0 0 分 から 午後 3 時 5 0 分
八尾図書館 3 階集会室

出席者 (敬称略)

井上 眞澄 (京都橘大学文学部教授)
中浜 多美江 (八尾市女性団体連合会)
戸部 久三 (大阪市立中央図書館企画情報担当課長)
西田 尚美 (八尾市議会議員)
越智 妙子 (八尾市議会議員)
新居 佐登子 (八尾市社会教育委員)
村尾 佳代子 (八尾市青少年育成連絡協議会)
和田 辰彦 (八尾市校長会)
川口 紀子 (やお絵本の会)
森田 知香子 (おはなしばすけっと)

職 員

中原 敏博 (八尾市教育委員会教育長)
植田 武彦 (生涯学習部長)
倉本 清三郎 (生涯学習部次長)
大谷 進 (八尾図書館長)
鶴田 博子 (山本図書館長)
米田 敏幸 (志紀図書館長)
石田 誠 (八尾図書館長補佐)
筒 暁子 (八尾図書館利用サービス係長)
田中 由宏 (八尾図書館資料係長)
佐古田 明奈 (八尾図書館資料係主査)

案 件 (報告事項)

(1) 平成 2 1 年度事業の取組み状況について

「八尾図書館の施設配置計画 (案) 等について」

「図書館利用状況等について」

「図書館に関するアンケート結果 (速報版) について」

(2) その他

司会（鶴田館長） 本日は、ご多忙のところご出席いただきまして、誠に有難うございます。

先日、委員の皆様へ送付しました資料の一部に綴じ込む順序の不備があり、ご迷惑をおかけいたしました。本日記布の資料は、机に置かせていただいております。先日送付の資料をお持ちでない方は、仰ってください。資料のご不足等はございませんでしょうか。

それでは井上会長よりしくお願いします。

井上会長 では、只今から、第16期第7回八尾市図書館協議会を開催させていただきます。

本日は、ご多忙のところ、ご出席いただきまして、誠に有難うございます。吉川委員、森委員は、所用のため、本日欠席です。

本日は教育長にご出席いただいておりますので、教育長からご挨拶をお願いします。

中原教育長 委員の皆様方には大変お忙しい中、また少し日差しは春らしくなりましたが風の方はまだまだ冷たいこの寒い中、八尾市図書館協議会に出席いただきまして、有難うございます。平素から本市の図書館行政に関して、大変ご尽力いただいておりますこと、重ねてお礼申し上げたいと思います。

市民の皆さんからも関心の高い八尾図書館の建替えにつきましては、去る2月3日に「庁舎周辺公共施設整備調査特別委員会」が開かれておりまして、ご審議いただいたところであります。

また、2月8日には「病院跡地活用調査特別委員会」が開かれまして、病院跡地活用として「新たな地域図書館の設置」についての審議も行われているところでございます。それらの状況につきましては、本日、後ほど、事務局の方から報告をさせていただきますけれども、今後、図書館につきましてはいろいろと議論が深まることになるかと考えております。

図書館におきましては、平成16年1月に策定いたしました「八尾市図書館サービス計画」に基づきまして、インターネット予約や夜間開館など、利用者ニーズに基づいた図書館サービスの向上に努めてまいりましたが、今後も、委員の皆様方によるご協議の中で、多くのご意見やご助言を頂きながら、図書館サービスの充実を図ってまいりたいと考えておりますし、より市民に親しまれ利用しやすい図書館を目指して、図書館整備事業を着実に進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

簡単ではございますけれども、ご挨拶とさせていただきます。本日は宜しく願いいたします。

井上会長 有難うございました。

それでは、本日の案件、平成21年度事業の取り組み状況につきまして、先ず、八尾図書館の施設配置計画案等につきまして事務局から報告をお願いします。

事務局（大谷館長） 八尾図書館建替及び第4図書館設置の整備計画の状況について、ご報告申し上げます。まず、八尾図書館の建替計画に関わります「庁舎周辺公共施設整備調査特別委員会」が2月3日に開催され、図書館等の施設配置計画案について、「市民から意見をいただいた実施結果」と「市の考え方」について、ご審議をいただいたところでございます。

本日は特別委員会に提出されました「庁舎周辺公共施設整備について」の資料を、委員の皆様方に配布させていただいております。八尾図書館整備に関する部分につきご説明を申し上げ、その他のところ

は割愛とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは、お手元配付の資料の1ページをご覧ください。

1. 庁舎周辺公共施設整備事業の検討状況について、(1)「これまでの取り組み経過について」、続いて、(2)「パブリックコメントの実施結果について」でございます。

実施期間は、平成21年12月21日から平成22年1月18日、実施結果は、意見の提出者数77人、提出意見数が155件でした。

意見内容及び意見に対する市の考え方につきましては、「資料1」をご覧ください。

では、お手元配布の資料1「庁舎周辺公共施設整備事業における施設配置計画案についての市民意見提出制度(パブリックコメント)の実施結果と市の考え方について」をご覧ください。こちらの資料は、パブリックコメントによりましてご意見内容と意見に対する市の考え方をまとめたものでございます。

ご提出いただいたご意見等は、趣旨を損なわないように要約され、同じ内容の趣旨のご意見については、まとめて回答されております。あわせて、ご提出いただいたご意見に対する市の考え方を示しております。なお、頂いた意見のうち、図書館整備の内容に関しましては、今後の事業の具体化に向けた取り組みを進める過程において、あらためて検討する予定にしております。今後、この資料につきましては、公表される予定となっております。

資料1の1ページでは、(1)で意見募集期間について、(2)で意見の提出方法別の提出人数及び意見数を示しております。

つづいて、資料1の2ページをご覧ください。(1)では、意見の概要と市の考え方をお示しております。なお、表では、パブリックコメントを実施しました配置計画案の該当ページ及び項目をあげており、続いて、市民意見の主な内容とそれに対する市の考え方を示しております。

最初に市民意見募集の対象となる意見として75件を掲載しておりますが、同じ意見につきましてはまとめておりますので、31件の項目として整理されております。

主な意見としましては、資料1の3ページからの「図書館を中心とする施設」につきまして、図書館としての広さを確保するため、図書館単独施設とすべきであるとのご意見、青少年センターとの併設に反対もしくは配慮を望むご意見、青少年センターとの併設では、特に学習スペースにつきまして、受験勉強のための部屋と図書館の閲覧スペースや調べ学習スペースとの分離を望む意見が出されておりました。

その他の意見では、中央図書館的機能の明記や充実を望むご意見、地域情報室・郷土資料室の充実や今東光氏の記念館の併設を望むご意見、市役所周辺に各施設が集中できたことを評価していただいたご意見もありました。

続いて資料1の6ページ以降に、市民意見募集の対象とならないその他の意見、今後の検討にかかる意見等といたしまして80件が掲載されておりますが、こちらも同じ意見についてはまとめており、項目としては15件として整理されております。

主な内容といたしましては、図書館においては、3館の休館日を揃えずにかえてはどうかとの提案や、民間委託の導入についての提案などがございます。

以上がパブリックコメントにより提出いただいたご意見の概要ですが、今後、整備を進めるうえで、参考となる意見は多数ございましたので、図書館整備事業や施設の運営において参考とさせていただきたいと考えております。

それでは、さきほどの資料の1ページにお戻り願います。

(3) 施設配置について」ですが、各敷地に配置する施設の内容と配置機能につきまして、お示しております。旧八尾商工会議所敷地におきましては、「図書館を中心とした施設」として、八尾図書館及び青少年センター等を配置し、機能としては、中央図書館的機能、学習室機能、地域情報提供機能、郷土情報提供機能、青少年センター機能を配置することとしております。

続きまして、2ページをご覧ください。こちらでは、施設配置図をお示しております。各敷地の位置を示すとともに、その敷地に配置いたします各施設を記載しております。

続いて、資料の3ページをご覧ください。こちらでは、(4) 今後の計画について、施設ごとの今後の計画を記載しております。図書館を中心とした施設については、施設整備に向け、平成22年度に設計業務に着手し、平成25年度の竣工をめざし取り組む予定でございます。

資料の5ページをご覧ください。4. (仮称)八尾図書館等整備事業について」でございますが、ここでは、先の「図書館を中心とした施設」の具体化に関し記載しております。

(1) 施設概要については、建設場所を旧八尾商工会議所敷地とし、主な施設は、八尾図書館、青少年センター等で、施設規模は約3,000平方メートルでございます。なお、図書館としての規模は、約2,000平方メートルの想定であります。

最後に(2) 整備スケジュール(案)については、平成22年度に図書館の基本設計及び旧八尾商工会議所の解体設計を実施する予定でございます。平成23年度には、図書館の実設計を実施するとともに、商工振興支援の拠点が完成し移転が完了した後に旧八尾商工会議所建物の解体を行い、文化財発掘調査を実施する予定でございます。また、平成24年度には、建設工事に着手する予定であり、平成25年度には、竣工し、移転作業ができるよう取り組んでまいります。

以上が八尾図書館整備事業の概要でございます。平成22年度当初予算に基本設計費等を計上する予定でございます。

なお、現在、図書館内部で検討しております図書館建替計画の平面配置のイメージ図を本日、配布させていただきます。1階を子どもフロアとし、2階を成人フロア、地下に書庫、3階を青少年センター等のフロアとする配置図であります。今後はこのイメージ図を基に、検討を進めてまいりたいと考えております。

次に、第4図書館の設置計画について、「病院跡地活用調査特別委員会」が2月8日開催され、ご審議をいただいたところでございます。特別委員会に提出されました「市立病院跡地整備計画の進捗状況について」の資料を、委員の皆様方に、配布させていただきます。図書館整備計画に関する部分につき、ご説明を申し上げますのでよろしくお願いいたします。

それでは、お手元配付の資料の1ページをご覧ください。

(2) まちづくりゾーンについての中で示されておりますように、今後、竜華コミュニティセンターと地域図書館の一体整備を行ってまいります。

資料の5ページをご覧ください。市立病院跡地整備計画イメージ図で、まちづくりゾーンの中に図書館の設置位置が示されております。平成22年度において、コミュニティセンターと地域図書館の一体整備に向けた整備計画の策定を進めてまいります。

以上、甚だ簡単ではございますが、八尾図書館建替・第4図書館設置の整備計画のご報告とさせていただきます。よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

井上会長 有難うございました。この件につきましては皆さんご意見・ご質問がありがたいと思います。

ご質問される方は挙手をお願い致します。

越智委員 前回、問題になっていましたが、当初は新しく出来る図書館は、4,000㎡ということだったと思います。それが2,000㎡ということになりましたら、今ある図書館より1.4倍ということが書いてありましたけれども、うんと縮まってしまったなと思うんですけれども、この中で中央図書館的機能を備えようと思ったら書庫が足りないんじゃないかという意見が出ていたと思うのですが、これでいけるということなんでしょうか。

大谷館長 我々としても図書館を作るときに、まず開架スペースを確保していきたいと、それから書庫のスペースを可能な限り確保していくことによって中央図書館的機能を果たして行きたいと考えております。

越智委員 中央図書館的機能としては、具体的には今の図書館に加えて、どういう機能を備えなければならぬとお考えですか。

大谷館長 今現在ある機能に加え、郷土資料、地域情報機能を新たに八尾図書館で賄っていききたいと考えております。

越智委員 いわゆる専門書のようなもの等は、今回の中央館的機能の中には入らないんですか。

大谷館長 言い漏れたんですが、専門書の充実というのがかねてからの課題ですので、八尾図書館のほうで充実を図っていきたくております。それと合わせて、複数館になりますと、サービスの一元化というのにも必要となってきますので、それも含めて八尾図書館で機能を持たせていきたくて考えております。

越智委員 私のイメージとしては、専門的な図書を置くなら非常に狭いな、という感じを受けるんですが、これでは1階は殆ど児童のスペースで、置くとすれば2階部分になるかと思うので、しんどいかなと感じます。中央図書館的機能を、どの位の範囲でされるかでも変わってくるかと思いますが、私も初めてこれを見せていただいたので検討させていただこうと思います。

それから、前回も出ていました青少年センターとの関係なんですが、パブリックコメントもいろいろ読ませていただいて、先ほど説明がありましたように図書館が小さくなったら困るなあ、という意見が結構あるなと思いました。

青少年センター側から言っても、青少年センター条例があって、青少年の育成を目的とした施設ですから、その機能が十分発揮できるようにしないとイケませんし、図書館側から見たら、その機能を脅かすことになったらあかんと思うんです。逆に青少年側から見たら、図書館で脅かさんといてよということになるかと思うんですが、青少年センターの問題をここでは云々出来ないかもしれませんが、これを見ていたら3階の半分ですか、非常にしんどいな、それやったら全部図書館機能としてやれば、もっと中央図書館的な機能も発揮出来るのではないかと思うし、青少年センターも、これでは図書館に食われてしまって無くなってしまわないかなという懸念がするんですけれど。

図書館としての機能をもっと備えてほしいというのが、長年の住民の願いでもありましたので、そういう点では併設でなく、図書館としての機能をもっともって備えることをしていただきたいなと、私は思います。

もう一点は、病院跡地のことにも関わりますが、民間委託というのが先ほど出ていましたけれども、民間委託や指定管理者というものでなくて、八尾市が直営で教育行政として、図書に親しむ人たちをどれだけ作っていくかということが、図書館の大きな役割かなと思うんです。

資料を読ませていただく中でも、「図書館は新しく必要ない」との意見がありましたけれど、そういう人たちもまだ一杯いらっしゃると思うんです。「あんまり利用していない」とか色々ありましたが、そういう人たちに「図書館あったらいいな」「本って楽しい」ということを、皆の中へ根付かせていけるような役目を果たそうと思ったら、民間委託や指定管理者ということでは出来ないと思うんです。指定管理者も毎年10%費用削減という方向を八尾市も出していますので、どこで削るかとなると人件費ということになってしまいますから、やっぱり本好きを作るというのは、人が一番大事やと思いますので、人を減らしていくような方向を打ち出さざるを得ない指定管理者制度は、やはり、図書館には絶対に馴染まないし、教育は人を作る仕事ですから、民間委託ということが言われていましたが、そういう点では市が直営で人を育てる教育という立場で臨んでいただきたいと思います。

これを一意見としてお願いしておきたいと思います。

植田部長 今、越智委員から八尾図書館、それから竜華に建ちます地域図書館について色々ご意見を頂きました。

まず、このファイルの資料なんですけど、これにつきましてはあくまでイメージというふうにお捉えいただきたい。それと言いますのも、前回の協議会で具体的にどう言った形のを想定したらいいのか想像できないと言った意見も伺ったと記憶しております。そういったことで急遽、建替え後の図書館がこのようになるかなといった想定でご用意したものですので、地下にこういった書庫があれば図書館として素晴らしいといった発想のもとに描いておりますし、図書館を中心として考えていますから、3階に青少年センターという位置づけでこういう配置にしていますけれど、先の協議会の中でも我々が委員さんにご答弁申し上げたのは、今後、それぞれの所属・所管で協議をしながら各々が使い易い形で新しい図書館、新しい青少年センターとしての中身を作り上げていこうといった段階ですので、これはあくまでもイメージということでこの通りになるということではございません。これがまず1点です。

それから、第4図書館についてもご意見を頂いております。確かに病院跡地の特別委員会の中でもそういうご指摘を頂戴しました。市としてご答弁申し上げましたように、色々な運営手法があるということも事実であります。直営でやるのも一つの手法ですし、指定管理者、或いは委託といった手法もございます。要は、図書館利用者に、何をご提供申し上げるのかといったことに主眼を置いた運営をしていきたいと考えておりますので、今後こういった運営になるかは未定です。指定管理者ありきといった考えではありませんし、もちろん直営も視野に入れております。委託・指定管理も含め、様々な状況を勘案した中で、我々が運営手法として取り入れていく手法についてのご説明は、議会にご報告申し上げますし、また本協議会についてもご説明申し上げることになる訳ですが、こういった形になるかといった方向性は、今はまだ出ておりませんのでよろしくお願い致します。

森田委員 この度、商工会議所跡地に図書館が出来ると正式に決まったのは、大変嬉しいことです。

第4図書館もなんとか作っていけるということをお聞きして、本当に喜んでおります。

そうなりますと、25年にオープン予定ということですので、本当に時間も無く、話し合いをたくさん持っていかないといけないと思うんですが、以前に協議会でお聞きしました時、図書館建築計画書と言うのを提出されて、それを基に協議していくということでした。そういう設計をする中で協議会の意見であるとか市民の意見を聞いていただけるということだったんですが、それはいつ頃になるのでしょうか。

大谷館長 今、来年度に向けて予算要求をし、この3月議会で予算が可決された後に、いよいよ基本設計を22年度に行う予定であります。基本設計を策定するにあたっては、業者を選定する手続きが入ってきます。早くて4月当初からですが、手続き上2カ月位かかってくる予定ですので、実際には基本設計の事務にかかれるのが6月以降になるのではないかと考えております。

従いまして、22年度は基本設計をするために約1年かかるという予定でございますので、実際には業者が決まってから6月以降にそういう形になってこようかと思えます。

森田委員 そうしたら、6月までに色々なこういう風にして欲しい等の意見を言えばいいんでしょうか。

大谷館長 実際には、業者が決まってからで十分だと思っております。と言いますのは、以前申し上げたときには、まだ予算の形も明らかになっておりませんでしたし、平成22年度で実施設計までいくといった極端な話でしたので、時間の余裕も無いということだったと思うんですけれども、今回平成22年度は基本設計、平成23年度に実施設計、平成24、25年度に建設工事という形になりましたので、平成22年度は十分に時間的な余裕が出てきたということです。

したがって、遅くとも平成22年度中には基本設計をあげたいと思っておりますので、その間6月頃に業者が決まるとなりますと、夏場以降にそういう話へ入っていけるかと考えています。

森田委員 それでは、6月以降にいろいろな意見を検討していく、その時点で建築計画書というようなものを提示していただける、と考えてよろしいんでしょうか。

大谷館長 そうですね。何も無い状態では議論できませんので、まずこちらで素案的な基本となるプランとなるようなものを作り上げて、図書館協議会にお示ししてご意見を頂く、そしてそれを反映させていきたいと、こう考えております。

森田委員 4館体制のお話もありましたが、八尾図書館建替えのことを考えるだけでも結構大変なところに、もう1つの図書館のことも視野に入れて、どちらも検討していかなければならないのは、すごく大変だなと思っているんですけれど、八尾図書館建替えにあたって検討したことを、新図書館の方にも反映して、こちらでは出来なかったけれども竜華では実現しよう、となっていくといいなと思えます。

それから、現在の八尾図書館は、本日の協議会もこの場所で開催されていますし、皆さんもよくご存知だと思いますが、私がよく使わせていただいているのは山本図書館です。山本図書館と志紀図書館と、

八尾市内にはこの他に2つ図書館がありますけれど、志紀図書館と山本図書館の決定的な違いは、志紀がワンフロアの図書館単独施設であるのに対し、山本はコミュニティセンターとの複合施設で3階建てであることです。今度建設される八尾図書館も、3階建てで地下書庫の複合施設ということで、山本と似たような感じになるのかなと思っています。志紀図書館と比べたときに、やはり皆さんおっしゃるのは、志紀図書館は使いやすいということなんです。ワンフロアで、職員も動きやすいし、利用者も利用しやすいという意見はよく耳にします。

私は山本図書館でボランティア活動をしているので、そのメンバーに、山本図書館についてどう思うかという意見を聞いてまとめたものを、本日お持ちしました。山本図書館と似たようなものになるのであれば、なるべくその山本の問題点を解決するような形で新図書館へ反映していただきたいと思いますので、資料を配らせていただきたいと思います。

井上会長、よろしいでしょうか。

井上会長 配っていただいて結構です。

森田委員 事前に了解を取らずに失礼いたしました。それではお配りします。

井上会長 この資料については、今日頂いたものですので、本日はたくさん案件が控えておりますので、申し訳ないですが次回までに委員の皆様方および図書館側に見ていただいて、次回の協議会で意見を述べる機会を持つということでよろしいでしょうか。

森田委員 実はこれを作成しましたのも、現在の八尾市立図書館の状態を、委員の皆さんに分かっていただきたいという思いが強くありまして、志紀図書館・山本図書館の状態を委員の皆さんに出来れば実際に見ていただいて、自分の目で見て、感じていただける場を設けていただけたらという希望がありましたので、こういう形を取らせていただいたんですけれども。

協議会で他市の図書館等を見学させていただいて、いろいろ先進的なものも見せていただいているんですけれど、八尾の図書館が現在抱えている問題点や、それぞれ持っているいいところ等も、もっと実際に知った上で、委員自身が認識した上で、今度作る図書館に向けて話し合っていけたら、より良いものが出来るのではないかと考えました。

井上会長 ということで、検討は次回でよろしいですか。

森田委員 はい。

川口委員 会長、付け足したいことがあるのですがいいでしょうか。

井上会長 どうぞ。

川口委員 現在、八尾図書館では「やお絵本の会」、志紀図書館では「くれよんの会」、山本では「おはなしばすけっと」といったボランティアグループが、毎月第3土曜日等に「おはなし会」をしている

んです。子どもたちに絵本の読み聞かせ等をしてはいますが、八尾図書館と志紀図書館では独立したおはなし室という部屋がありますので、ゆっくり子どもたちと向かい合っすることが出来るんですけど、山本図書館には専用の部屋が無く、図書館の開架スペース内、絵本のコーナーで実施しています。そうすると、そこで絵本を読んでいる子どもさんに「どいて、場所を空けて」と言わなければならないのがとても不便で、実際におはなし会をする人も、声を大きく出したいけれど、大声ですると周囲の迷惑になるので、とても困るという現状があります。

区切られた部屋ではないから、おはなし会へ入りやすい、参加しやすいという利点もあると思いますが、欠点も大きい。八尾図書館や志紀図書館ですと独立したスペースで、とてもやりやすいので、皆さんにも一度、おはなし会の現場を見ていただきたいなと、私は思うんですが。

大谷館長 今、川口委員さんから貴重なご意見を頂きました。日常、それぞれの図書館でボランティア活動を行っていただいていますので、各図書館の利用しやすいところ、利用しにくいところを、的確につかんでいる生の声、意見であると思います。

こういった貴重な意見を、我々も次の図書館建設へ活かしていきたいと考えておりますので、我々の気づかないところなど、色々またご助言なり頂けるよう、お願いしたいと思います。

井上会長 まとめてきてくださったものに挙がった点で、改善できるところ、可能な点についてはまたご検討いただけたらと思います。

本日は沢山の案件がございますので、申し訳ないですが、次回改めて検討とさせていただきます。他にご意見ございませんか。

中浜委員 貴重なご意見を有難うございました。参考にさせていただきたいと思います。新しい図書館の内容が、前と同じであってはいけないので、こういった意見も大事にしていけないと思います。サービスの問題であるとか、やはり、暗いという意見、本を読むでもなく読まないでもなく、ただずっと座っていて、市民の方から「八尾図書館は暗いから行きにくい」という意見も聞かれます。2年後に建設工事着手と書かれていますが、それに伴って内覧会とかそういったことはされるのでしょうか。こういった形で市民の皆さんにお披露目というか見てもらうのか、そういった点はどうお考えですか。

大谷館長 内覧会ですか。まだちょっとかなり早い段階ですので、何も決まっておりませんが、具体的に、いつの時期にどのような形で見せていくのかは当然考えていきます。またきちんと決まりましてから、市民なり利用者の皆さんにお示しできる形で考えていきたいと考えております。時期は現時点では未だちょっと明言できませんが。

中浜委員 そういう声がある、ということだけお伝えしておきます。

大谷館長 分かりました。

井上会長 当初の予定では、特に八尾図書館の建替えに関して、平成22年度で実施設計までとお話

を聞きましたので、これは大変だと感じましたが、設計期間が2年間ということになりましたので、少しゆっくり、じっくり腰を据えて検討する時間があるかと思います。

私の方からも1点質問ですが、この概略図の中で、1階2階、地下と図書館部分ございますが、それぞれワンフロア分の延床面積は大体どれくらいですか。

大谷館長 地下から3階までで約3,000㎡、その内、図書館部分で約2,000㎡ですので、地下と1階、2階の専有部分として約2,000㎡、残りが青少年センターという床面積になるイメージです。

井上会長 そうすると大体ワンフロア700㎡ですか。

大谷館長 共有部分も含めた建物全体で、1階、2階が約900㎡で、地下が約700㎡になります。あくまで参考値ですけれども。

井上会長 もちろん設計もまだの段階というのは充分承知しておるんですけど、参考としてということでお伺いしました。

植田部長 今の商工会議所でも、地下には機械設備等に充てている部分も多いですから、普通に考えますと1階が900㎡なら地下も900㎡となるとと思いますが、機械設備等が入ってくる部分もあって、それくらい狭くなるのではという想定で答えております。実際に設計が上がってくる段階では床面積については若干或いは大幅な変更等も充分考えられますことと、今後の青少年課との協議もまだまだ残っておりますので、そういった事情をご理解いただいた上で、協議のための参考資料としてお渡ししているものですので、よろしくをお願いします。

井上会長 駐車場はどうなりますか。

大谷館長 駐車場設置はちょっと難しいですね。

井上会長 1階部分に身障者用駐車場2台と書いてありますが、これだけですか。後は公用車と移動図書館車で。

大谷館長 1階については、児童の開架スペースが中心で、そこへ移動図書館車の機能も入れなければなりません、当然これは1階にしか配置できませんので。それから事務所関係のスペースとして、1階は考えております。ですから、建物を優先しますと、駐車場の確保はちょっと困難です。

現在も八尾図書館には専用の駐車場が無く、道路向かいの市役所地下駐車場に入れていただいています。利用者が自動車で来られるのは土・日曜日がやはり多いんですが、市役所が閉庁日ですので駐車場が空いているということで、混雑で入れないということも無く、ちょうど有効利用していけるため、今後もこのような活用を考えております。

井上会長 市立病院跡地について、私共が地理的なことがよく分からないので申し訳ないんですが、

ここはJR八尾駅からですと、どれくらいの距離になるんですか。

大谷館長 位置的に申し上げますと、JR八尾駅から南方向へ行きますと国道25号線に出るんですが、そこがちょうど太子堂交差点で、その角の西南のところは旧八尾市立病院です。25号線に接しているところが北側で、図書館の配置予定は敷地北西部「まちづくりゾーン」です。敷地面積としては約3,000㎡、図書館と竜華コミュニティセンター用地として確保されているという状況です。駅までは徒歩で15分程度でしょうか。

井上会長 15分程度ですと1kmちょっとですか、それ程遠くないという印象ですね。病院跡地全体の敷地面積は、これはかなり広いんですね。

大谷館長 敷地全体ですと約20,000㎡程度あります。

井上会長 そうですか。どうも有難うございました。

さて、平成22年度にこの病院跡地の施設建設計画を策定するというのですが、そうしますと、先ほどの森田委員さんの発言どおり、遠からずということになりますね。八尾図書館の建替え時期と重なる可能性もあるわけですね。

大谷館長 そうですね。会長の仰るとおり、八尾図書館の整備時期と第4図書館の整備時期が非常に近くなっています。ただ、平成22年度については、八尾図書館建替えを中心としていく予定です。八尾図書館の方は、もう基本設計の準備にかかるんですが、第4図書館の方は基本設計の前の調査的な業務になるということで、多少、段階がずれております。また予算につきましても、コミセンの担当課である八尾市の自治推進課の方で計上していくということで、自治推進課が中心となって動いていくと聞いております。

森田委員 今、会長さんも「病院跡地はどこにあるんですか」とおっしゃっていたように、山本図書館、志紀図書館、今度新しく出来る竜華の図書館、そういう場所の見学を一度企画していただいて、現在ある八尾の市立図書館を見学する場を設けていただけたら有難いなと、私たちも思うんです。そうしたら現実が見えてくる面もあると思いますが、いかがでしょうか。

大谷館長 例年、他市の先進図書館見学として協議会で施設見学を行っておりますので、例えばそのような形で、八尾市内の図書館施設を見学するというのも一つの方法かと思えます。

森田委員 ただ、それをするのであれば、例年は秋に実施されていますけれど、来年度は6月までの時点に実施していただいて、現状を把握してから話し合いに入った方がいいと、私は思うんですけれども、いかがでしょうか。

大谷館長 一つ提案させていただいたんですが、病院跡地の現場は既に動いているんですね。と言うのも、民間の保育所関係の施設を建てたりという工事も既にしておりますので、敷地内へ入って、とい

うのは困難で、見学するにしても国道沿いから見るといような形になってしまいます。

森田委員 新しい竜華図書館の予定地についてはそうなんですけれど、現在ある志紀図書館と山本図書館に対しての施設見学というのを、是非、検討していただきたいんですけども。

大谷館長 このようなご提案ありましたが、どうですか、委員の皆さん。

川口委員 地区が違うと余り足を運ばないということもありますし。

村尾委員 私は大正北なんですけれども、本当に八尾市の外れの方なんですよ。ですから、今回、竜華地区に図書館が出来るというのは大いに嬉しいことです。志紀図書館へ行くにも中途半端な地域で、「病院跡地に何か公共施設ができたらいいのにな」と願っていた私たちなので、本当に助かっています。それで、今のお話にありました山本図書館ですか、本当にどの辺にあるのか知らないんですよ。すみませんね。どの辺りにあるのかも全く分からない状況で、お話を聞きまして、一度足を伸ばさせていただきたいなと思いました。第3土曜日のおはなし会ですか、それもちょっと一度見学させていただきたいなと、個人的には思っています。

井上会長 次回以降、もし見学を実施されるのであれば、希望される方だけでもね、ご存知の方はもう改めて行っていただく必要も無いと思いますので、希望者という形で計画していただくというのも考えていただきたいと思います。

この件につきましては、私と事務局とで相談させていただきます。

実は私も志紀図書館へ行ったことがありませんでしたので、前回の協議会が終わった後、ちょっと連れて行っていただいたんです。ということで、事務局と相談させていただきますので。

森田委員 よろしく願いいたします。

新居委員 いつも八尾市立図書館の運営、サービスにいろいろご努力いただき有難うございます。私も村尾委員と同じ八尾の西端で陸の孤島と言われていた竹淵です。子どもたちも八尾まで来るのに交通手段がありません。

病院跡地に第4図書館ができるのを心待ちにしていると、若いお母さん方はおっしゃっています。

「敷地も結構ありそうなので、ワンフロアで駐車場もある志紀図書館のようなのがいいな」という声を耳にします。

でも、まず八尾中央図書館の建設が先です、限りある敷地に限りある予算ではありますが、中央図書館としての機能が十二分に活かされるような図書館に出来あがることを望んでいます。

越智委員 八尾の中に在りながら、中々行く機会が無いんですけど、今度どこに作ろうと決める時に、地図に描いて利用状況等を考えられたと思うんですが、その時に図書館と自分の住んでいる所の距離というのと図書館利用の頻度に相関関係があったと思います。

前回は竹淵の問題が上がりましたが、利用が非常に少ない、近ければそれだけ沢山利用出来るし、

アンケートでも利用者の来館手段として、徒歩と自転車・バイクというのが非常に多かったんですけど、図書館に何処からでも来られるようにしておくというのは大事なことだと思います。近い人はすぐに行けるけれど、遠い者は行く回数も減るうえに、車で行ったら駐車料金を取られるといった、同じ八尾の施設を利用するのに、住んでいる地域によって不便な人ほど来ても駐車料金を取られるのは非常に矛盾やなと思いますので、その点は遠くから来た人が車で来ても何で来ても、近くに住んでいる人と同じように、お金が特別に掛かるということがないような状況を是非考えていただきたい。図書館だけで解決出来る問題ではないですが、図書館としても考えていっていただきたいと思います。

大谷館長 これは図書館だけの問題ではなくて、全庁的な問題に係わりますので、今後広い所でご議論していくことになるかと思えます。

森田委員 前回もちょっと問題になっていましたし、パブリックコメントでも何人が意見を出しておられる学習室の問題なんですが、前回の協議会の最後で、井上会長も「学生だけの、受験勉強だけの為の、学習室というのは図書館には必要ないんじゃないか」というお話をされました。

図書館というのは生涯学習の場であり学習する場ではあるんですけども、社会人や小学生が調べ学習をする為に来たときに、受験生の為に場所を奪われてしまうということは絶対に避けなければいけないと、私は思うんですが、今回示されておりますイメージ図に拠りますと3階に青少年センターを作られて、ここに学習室を作られるということなんで、全く図書館とは別の施設とういふうに考えてよろしいんでしょうか。

大谷館長 以前からそういうご指摘を頂いております。従って、縦割りの施設に致しますとそういう弊害も出て来ると思えますので、フロア単位で仕切ることによりましてそういった問題が解消できるのではないかと考えております。

従って図書館は1階・2階を専用的に使わせていただくと言った考え方でお示ししております。ですから3階部分については図書館以外の施設で共用させていただこうといった形で考えています。

川口委員 管理も違う所でされるということですか。

大谷館長 管理につきましては、複合施設ですので、これから協議を進めていくこととなります。ですから、いかに効率的な管理運営が出来るかということになってくるかと思えますが、これから協議してまいります。

川口委員 なるべく図書館職員の手を煩わせないように、図書館職員も忙しいでしょうから青少年センターにかかわらなくて済むように、というのが私たちの希望です。

大谷館長 効率的な管理が出来るように、そのためにはフロア単位で仕切る方がベターではないかと考えています。

植田部長 あくまでもイメージ図の段階での話ですが、図書館の職員も青少年センターの職員も市の

職員なんです。図書館の職員だけに青少年センター部分の管理を「する」「しない」と言うんじゃなくて、建物全体について我々は考える必要があるでしょうし、建物全体を市として効率的な管理をしていくという立場で、色々な手法を検討する必要があるということです。具体的にどうするというは未だ何も決まってないですし、青少年センター部分が入っていますが、青少年センター部門とは未だ協議には入っていません。

ですから、あくまでもイメージとして、こういう風な形であれば図書館としていいね、といったある意味一方的なイメージなんです。今後の青少年部門と交渉の中で色んな変動が出てきますし、あくまでも協議をしていく材料としてお示ししておりますので、これが基本となりますと問題ですので、その点だけ宜しく願いをしておきます。

森田委員 私もそれは十分踏まえた上で、こういう風にワンフロアで区切られて図書館は図書館、青少年センターなり学習室は学習室、という風に区切られて管理されて、図書館員の方が部屋の貸し借りの為の用務をしたりとか、そうやって本来図書館が果たすべき役割・担うべきところを削って違う業務をしないといけないとなると、図書館サービスへの影響というのが出てきますので、そういうことにはならないように、分かれて別管理になって、図書館は図書館という風に独立して管理される方向が望ましいというふうに思います。そのようになることを希望しております。

井上会長 運営のことはこれから協議していくということですので、市の方でご検討いただくようにお願いします。

川口委員 現在、八尾図書館では毎年、文学講座や源氏物語講演会等がすごく盛況で、成人で 50 人位申し込みがあるそうなんです、人形劇とかの子ども向けの行事も整理券を配って、いつも盛況のようなんですけれども、そういった講演会をしたり講座をしたりとかの部屋は、建替え後はどこになるのでしょうか。この小会議室ですか、それともこのミーティングルームでしょうか。

大谷館長 未だそこまで具体的に考えておりません。これはあくまでイメージ図ですが、1階は子どものフロアですので、できれば子ども行事なんかが出来ればいいかなと思いますし、3階は共用施設が入っておりますから、そちらを使うことも可能ですので、今後また具体的に詰めていく必要があるかなと思います。いずれにしても、そういう行事を図書館としてはやっていきたいということはこちらも認識しておりますので、出来る場所を確保していきたいと考えております。

西田委員 設置計画案以外の意見もたくさん出ていますので、次の案件「利用状況について」でありますとか、「アンケート結果」とかの報告を聞かせていただいてから、意見を言わせていただきたいと思うのですが。

井上会長 わかりました。質問は後程ということで、2番目の「図書館利用状況等について」報告をお願い致します。

事務局（米田館長） それでは、平成 21 年度事業につきまして、12 月末現在の図書館利用状況等

のご報告をさせていただきます。お手元配布の協議会資料をお開きください。

まず、「1 館別貸出人数」でございますが、高校生以上を一般、中学生を生徒、小学校以下を児童として区分しております。前年度同期と比較しますと、一般で13,388人、生徒で1,515人の増加、児童で7,553人の減少で、合計で7,350人増加しております。館別に見ますと、八尾図書館で14,462人の増、移動図書館で955人の減、山本図書館で1,818人の減、志紀図書館で4,339人の減となり、新型インフルエンザによる休館や休校等の影響がある地域もありますが、全体では7,350人の増加でございます。

次に、「2 個人貸出点数」です。館別合計で前年度同期と比較しますと八尾図書館は30,558点の増加で378,718点、移動図書館は4,519点の減少で58,925点、そして山本図書館は4,780点の減少で562,810点、志紀図書館は8,015点の減少で525,197点となっており、全体では13,244点の増加で1,525,650点でございます。全体としましては、館別、資料種別での増減はあるものの、貸出人数及び貸出点数は前年度よりも増加しております。

続いて「3 全蔵書資料」でございますが、館別合計で前年度同期と比較しますと、八尾図書館では16,587点の減少で220,935点、移動図書館は668点の減少で21,607点、山本図書館は6,325点の減少で193,154点、志紀図書館は3,456点の減少で184,329点となっております。

「4 新規登録者数」ですが、小子化の影響もございまして、児童の新規登録者数が減少傾向にあり、全体では61人の減少でございます。

次に、「5 休日開館の利用状況」で、貸出人数と貸出点数の平日平均と休日平均の状況をお示ししております。各館ともに、貸出人数及び貸出点数は、休日平均が平日平均を上回っており、山本図書館の休日平均は、貸出人数944人、貸出点数3,143点と高く、また、平日利用に対する休日利用の比率は、志紀図書館が最も高くなっております。

「6 夜間開館利用状況」ですが、開館時間を午後5時から7時まで2時間延長する夜間開館につきましては、平成20年5月より時差出勤制を導入し、各館週1回から全館週3回に拡大実施を行ったところでございます。実施日数は、各館とも103日です。夜間開館日における17時から19時までの利用割合について、館ごとの1日あたりの貸出人数と貸出点数をお示ししております。各館とも17時から19時までの貸出人数と貸出点数の利用率は全体の2割以下ですが、夜間開館実施日を週3日に拡大したことにより、実施日における貸出人数及び貸出点数は増加しています。

続きまして、「7 予約件数」です。各館における予約方法別件数と割合及び伸び率をお示しさせていただきます。 「端末」は予約カードや電話受付による従来の予約をあらわし、「WEB」がインターネット予約で、括弧書きは前年度同時期の値です。八尾図書館と山本図書館は予約件数が前年度比20%以上の伸び率で、特に山本は27%増となっており、志紀図書館を含めた全体でも約20%伸びております。予約件数合計に占めるインターネット予約の割合が各館とも4割を超え、八尾図書館では5割近い数値となっており、志紀図書館でのWEB予約の割合も、前年度38%から今年度47%と大きく伸びております。全体的に、端末予約からWEB予約へ大きくシフトしています。

最後に「8 障がい者サービス実施状況」でございますが、図書館への来館が困難な方々への図書宅配サービスの延べ利用者数、延べ訪問回数及び延べ貸出回数は前年度に比べて増加している状況でございます。

以上で、平成21年度事業の進捗状況についてのご報告を終わります。

井上会長 有難うございました。では、続きまして「図書館に関するアンケートの結果（速報版）」について報告してください。

事務局（石田補佐） それでは、「図書館に関するアンケート結果」について、ご報告させていただきます。お手元の資料「八尾市立図書館に関するアンケート調査結果報告書（速報版）」の1ページをお開き下さい。

このアンケートは、図書館の利用状況や利用意向、図書館に関する意識や要望などを把握し、八尾市第2次図書館サービス計画の策定にあたっての基礎資料とするため、中学生以上を対象とし、八尾・山本・志紀の3館の利用者及び出張所をはじめとした各公共施設等の来訪者に対して、昨年11月中旬から約1ヶ月間かけて実施いたしました。

3)は回収結果で、全体の配布数2,480件に対し回収数は1,464件で、回収率は59%です。有効回収数1,462件で有効回収率59%となっております。

4)は、この速報版報告書の見方の留意点を記載しております。数値は、すべて小数点第2位を四捨五入して表示していますので、比率合計が100%にならない場合があります。また、複数回答を求めた設問では、当然、比率合計は100%を超えていますので、各々の回答が全体の回答件数の内、どれくらいの割合を占めているのかについて、参考データとして、円グラフ表示しております。

資料の2ページ、3ページをご覧ください。(1)から(4)は性別、年齢階層など回答者属性の結果でございます。

次に、4ページ、八尾市立図書館への来館頻度ですが、「ほぼ毎日」から「月数回程度」までを合わせますと75%を超えております。

5～9ページは、「主に利用する図書館」、「主な利用理由と達成状況」、「利用する曜日や時間帯」、「図書館までの所要時間や来館するときの交通手段」等の結果をお示ししております。

まず、「主な利用理由」ですが、本、雑誌、ビデオ、CD、DVDに関する借出、返却、閲覧、視聴など、「図書館の蔵書資料を利用する」という回答割合が多くなっております。

(3)の「利用理由別達成状況」では、全体的に達成度は高いですが、「ビデオ・DVD、CDの視聴」や「学校の勉強や自習」については、達成度が比較的低くなっています。

「よく利用する曜日や時間帯」につきましては、複数回答を求めた設問でしたので、回答件数合計に対する割合を参考データとして表示しております。

「所用時間」「来館時の交通手段」等に関しては、自宅から、徒歩又は自転車・バイクで、15分以内で来館される方が多い結果となっております。

資料の10ページは、アンケートの問1「来館頻度」の回答で、普段、図書館を利用されていない方の利用しない理由について、複数回答を求めたもので、参考データをお示ししております。「図書館の場所が遠い、行きにくい」や「忙しいから」の回答は、全体の17～18%程度で、本は購入する、読書はしないなどの「必要性を感じない」との回答が23%ほどございます。今後、これからの図書館のあり方といたしまして、図書資料以外にも、市民の暮らしに役立つ情報を集積・発信できる施設を目指してまいりたいと考えております。

11ページの、5)新しい図書館の必要度ですが、「どちらかという不要」及び「不要」の回答割合は、合わせて約47%となっておりますが、「お住まいの地域に新しい図書館は必要ですか？」の問

いに対する回答ですので、例えば、山本地区や志紀地区のようにお住まいの地域に既に図書館がある方の「不要」という回答も含まれており、決して第4図書館が不要だということではございません。そのことは、次の6)利用意向が高いことから伺うことができます。

12ページをご覧ください。今後、利用したい曜日と時間について複数回答を求め、各々の回答割合を円グラフで示しております。利用したい曜日は「曜日に拘わらず利用する」が34.2%と最も多く、利用したい時間は「13時から17時」が25.8%で最多、「10時から12時」が17.3%と続いています。

13ページは、八尾図書館の建替えについて、設備などハード面で希望することを項目別に優先度でお示しております。

14ページは、ハード面の優先度を優先順位に応じてポイント換算し、回答割合を乗じて優先度ポイントとして数値化し、総合的な評価を行った結果をお示しています。優先度1位では「交通の利便性」が最も高く、優先度2位及び3位で「閲覧室の充実」が高い割合となっており、総合的な優先度ポイントとして、閲覧室の充実や交通の利便性が高い数値となっております。

15ページは、八尾図書館の建替えについて、サービスなどソフト面で希望することを項目別に優先度でお示しております。

16ページは、ハード面で行ったと同様の算出手法で優先度ポイントによる総合評価を行いました結果でございます。

17～20ページは、図書館利用に関する重要度及び満足度並びに図書館事業に関する認知状況及び必要度の結果をお示しております。

本日は、アンケート調査結果の単純集計を、速報版として皆様にご報告させていただきましたが、今後、細かな複合集計や分析を行い、図書館サービス計画の素案づくりに役立ててまいりたいと考えております。

甚だ簡単ですが、報告は以上でございます。よろしくお願いいたします。

井上会長 有難うございます。2番目、3番目のそれぞれの案件について一括してご報告いただきましたので、この件に関してご意見ご質問のある方はおられますか。

西田委員 今年2010年は国民読書年ということで、このような年に皆さんと新しい図書館のことに取り組んでいけるのは非常に嬉しく喜ばしいことです。一方で、今まではこういう年を設けなくても当たり前のように本を読んできた時代だったのが、今はもう活字離れ、本離れということで、そういう年を設けたり、色々なイベントを行ったりしなければ、図書館に足が向かない、本を読まない大人の方や子どもたちが増えてきていること自体が、本との距離が出来てきたということで、大変悲しいなと思うんですけども、それでもやっぱりそういう関係を修正・再生していこうと、こういう風に読書年と定められたことについて取り組んでいくということは、大変いいことだと思います。

八尾市にとりまして、今回2つの図書館が出来ると言うことでアンケートを取っていただきまして、大変分かりやすいですし、取り組みが大変充実するのではないかと期待はしています。説明を聞いて初めて分かることも沢山あって、「新しい図書館が不要」という回答がどうして多いのかなと、私も疑問に思いまして、既に在る地域の方が多く回答しているのかなと思ったりもしたんですが、「積極的に利用したい」という方も多いということで、そういう面とか、ハード面のことも色々議論になりましたけ

れども、機能の充実は勿論、種類の多さとか、読みたい本が必ずあるとかいう部分でも、先ほどの説明でも郷土資料とかいろいろ考えていただいている点も含めて、何が一番大事かと言いますと「魅力ある図書館作り」で、これは抽象的に言ってしまうと難しいですが、具体的に進めていかないといけないことで、最終的な目的は本を読むことです。そのきっかけになるための「図書館へ行くこと」に、「図書館」に魅力を感じないといけないということです。

利便性という点で、現在の八尾図書館は大変良いと思うんですが、それでもやっぱりアンケートでは、交通の利便性というものが多くあげられているんですけど、その利便性だけで本当に沢山の人に来ていただけるのか。私が小さい頃に出来た大阪府の中央図書館が、大変魅力的でよく行きます。魅力的であれば遠くても行きたいと思うんですね。そういう意味では、先ほども説明の中で市民の暮らしに役立つ情報とかいう風に仰っていましたが、本を読まない方に本を好きになってもらうという全体的な取り組みをしていかなければならないと思います。好きな人は行きますし、利用も慣れていらっしゃるんですが、市としては全ての人を対象ですので、アンケートをとって下さっているように、利用していない人の意見も踏まえて全体的な取り組みをしていかないといけない、さまざまなことも含めて集約していただいていると思いますが、その点に関して、どのように考えていらっしゃるのかお答えいただけたらと思います。

大谷館長 魅力ある図書館づくりということでお話を頂いたと思うんですが、人が使い易い図書館ということについてどのようにしていけばいいか、交通の利便性も立てながら、人に来ていただくためには、豊富な資料を整えると言うことが重要ではないかと思えます。それに当たっては子どもから成人まで幅広くご利用いただいていますので、そういう年齢層にあうような形で資料を整えていくことが大事だと考えます。

それから小さい時から読書に触れる機会を作っていく必要があるのではないかと思います。学校も含めてそういう教育環境を作りながら、子ども達の読書活動に支援をしていくのも、図書館の大きな役割ではないかと思っております。

さらに、日常生活に密着した情報を図書館に揃えておくのもやはり大事ではないかと思えます。例えば、市内で発行されている（一般出版物でない）書物関係は、他所のどこへ行っても見る事が出来ませんので、図書館へ行けばそういう情報が在って、知ることが出来るということも、地域の中では大事な事ではないかと思えます。

色々な魅力づくりということでこれから研究も引き続いてやっていく必要があると思うんですが、ハード面からいきますと開架スペースや閲覧スペースを十分確保していくということが、ゆったりと親しんでもらえる図書館づくりに繋がっていくのではないかと考えております。

西田委員 機能の充実も含め、「魅力ある図書館」にするには継続性も大事だと思いますので、その時々ニーズに応じていくのも大事ですが、よく考えていただきたいと思います。

最後に、アンケートにあります「図書館サービス関係事業の認知状況」ですけど、「おはなし会」等は知らない方も少なく、非常に密にボランティアの方々も頑張ってくださいているなど分かるんですけど、市の方から広報もしているとは思いますが、その他の事業を見ますと、知らない方が多い状況ですね。せっかくやっている事業ですから、啓発をしっかりと行って、ただ「やっています」というだけでなく、これからは認知度を上げる努力してほしいと思います。「広報誌に載せています」「ホー

ムページにも掲載しています」とはおっしゃるかもしれませんが、でも実際に知られていない訳ですから、せっかく実施しているのに勿体無いですので、その辺、どういう周知をしたらいいのかも含め、今後ご検討いただけたらと思います。

石田補佐 ただいまのご指摘、全くごもっともであると思います

アンケート実施時にも、ホームページや市政だよりでの広報だけでは、まだ知らない方が多いということで、これも一つの周知活動・広報の一環として、このような形でのアンケート構成といたしました。現在実施している事業を一覧形式でアンケートの項目に持ってきて、用紙を見たときに、こういった事業を知らない方に「こんなこともやっているんだな」と知っていただくために、館内の職員で検討した結果でございます。

ご指摘のとおり、もっと広く伝わるような方法を、今後も継続して考えてまいります。

井上会長 アンケート回答者の、図書館をある程度利用されている方でも、これだけの認知度しかない。図書館を利用されていない方については、尚更、色々なことを知らないのが当然かと思えます。新しい八尾図書館の完成後も含めて、また新たなPRの方法なり考えていただければと思います。

和田委員 利用状況調査、アンケート調査、とても詳しくされているなとまず思いました。

先日、私の小学校で3年生が団体で、この図書館の施設見学をさせていただきました。その節は、本当に親切丁寧に、見学の案内・説明等していただいて、この集会室での読み聞かせ等、多様なサービスをしていただきまして、本当に有難うございました。

このように、八尾市内の幼稚園・小学校等、見学という形での利用もあるし、学習面で「調べ学習」というような形で、クラス単位で利用されている場合もあるかと思えます。もし分かればいいんですけど、幼稚園・小学校・中学校が見学等で団体利用されている状況等、教えていただけたらと思います。

米田館長 例えばですが、山本図書館では春に社会見学がありますので、近隣の小学校6校程から見学があったり、志紀図書館では地元の小学校、特に志紀小が中心なんですが、地域でボランティアをされている「くれよんの会」と志紀図書館と一緒に、小学校へ出向きまして「おはなし宅急便」という出張おはなし会を実施したりしています。

そういう行事を通じて、ある程度、小学生の需要を掘り起こしていく努力は、各地域館ごとに行っているという状況です。

鶴田館長 小学校の見学での利用ばかりでなく、幼稚園の利用もあります。毎年4～6月の時期、定期的に、年少・年中・年長さんそれぞれで見学に来られます。園児一人ずつが自分のカードを作って、1冊ずつ絵本を借りていく、という園も中にはあります。「はじめての図書館デビュー」という形で、幼稚園と図書館との関係を作っていくって、子どもたちがこれから図書に親しむ土台を作る活動を行っています。

和田委員 本校も出来るだけ読書に親しむきっかけづくりを進めています。なかなかすぐ読書へ行か

ないんですよね。そのきっかけとして読み聞かせから入って、だんだんと読書に親しんでいって、後は自分の興味のある方へ進んでいくというのがいいんですけれど。ですから、そういった取組みをどんどん進めていって欲しいと思います。

大谷館長 今、山本・志紀両館長の話もありましたが、小学校等でそのような形で利用いただいているところもありますし、中学校では職業体験の場としての利用もありまして、3図書館それぞれ受け入れております。やはり市内の学校との連携を密にして、様々な形でご利用いただけるようにと我々も考えていますので、よろしく願いいたします。

森田委員 お話が出たので申し上げますが、学校図書館との連携に関しては、団体貸出等もあると思いますが、建替後の八尾図書館が、新しく中央図書館的機能を持ったときに、学校図書館との連携についてどのように考えておられるのか、その辺りをお願いします。

植田部長 今後の図書館行政に関わるようなご質問をいただきましたが、先ほどから委員の皆様にもいろいろご指摘いただいている「魅力ある図書館行政」を進めていくなかで、活字離れであるとか様々な問題もありますが、地域の財産として在る「学校の中の図書館」、教育委員会全体としてこれの活用を積極的に考えていく必要があるでしょうし、生涯学習部としては、既存の図書館オンリーでのサービス提供に止まらず、現に移動図書館という出向いたかたちでのサービスも行っていますが、それだけでなく、今後は学校とのコラボで何らかの形で学校図書室あるいは学校での図書館サービスが出来ないかということも、検討課題の一つであるとの認識は持っております。

そのことについては、部を超えての、一種マトリクス的な取り組みになってまいりますから、行政の中での縦割りの考え方ではなくて、教育委員会あるいは八尾市全体という大きな視点で考えていく必要があると思います。「市としてはこういったサービスを考えているのだが、どうか」というようなご協議を、また図書館協議会の方へお願いするといったことも、今後有り得ますけれども、今ご質問いただいた「学校との連携」という点では、今後検討する必要があるという認識を、我々も持っております。

森田委員 八尾市内の学校図書館もだんだん整備されてきて、学校図書館司書というのも、何校か掛け持ちではあるみたいですが、設置されるようになってきたところですから、公立図書館とも連携を組んで、お互いに協力しあって、色々なことに取り組んでいただけたら有難いなと思うんですけれども。

今のお話にもあったように、学校図書館と公共図書館の管轄とが違ふということで、以前はこの協議会の場では、余りお話が無かったかと思うのですが、中央図書館的機能の中に、そういった連携も取り入れてくれると有難いです。

中原教育長 市側の出席者で教職の出身が私だけですので、少し話をさせていただきます。

ご存知のとおり、学校には司書教諭がおりまして、学校図書館を活性化させるよう取り組んでいるんですけれども、先ほども話に出ました「学校図書館ボランティア」も学校へ配置しております。司書教諭と学校図書館ボランティアとが協働し、さらに図書館とも連携しながら、将来的にはもっと関係を密にしていきたいと考えております。本好きな子どもたちを育てていくことが、将来的に図書館を活性化

していくことにもなるだろうと思っています。

財政的な問題で、図書も沢山は買えないんですけども、市民の方々のニーズも踏まえ、有効活用していきたいと思います。今後も様々な工夫をして進めていきたいと考えています。

井上会長 支援センターが独立して在ればいいんですが、無い場合は中央図書館的機能に組み込むよう考えていかなければならない、今後の課題であると思います。

大谷館長 学校との連携に関して、教育長の話にもありましたボランティアの「学校図書館サポーター」を、数年前から配置していただいておりますが、図書館側としても、学校との連携を密にしながら、子どもたちの読書を出来るだけ推進できるよう努めていかなければならないと考えております。

具体的な取り組みとして、研修等の機会を通じて、図書館司書と学校図書館サポーターとの交流の場を設け、お互いに理解を深めていくといった「場」づくりを形にして行っているところです。まだまだ入り口の段階ですが、機会を設けてさらに理解を深めることによって、学校図書館・図書館行政、共に向上するよう努めていきたいと考えています。

森田委員 今、資料の充実というお話が出ましたが、以前「八尾図書館30年のあゆみ」という冊子を頂きましたが、こちらの「資料費と貸出点数の推移」という表で見ますと、平成13年度を頂点に資料費が年々減少傾向にありまして、13年度と比べますと平成19年度で2,000万円位、減っています。今年はまたもう少し減っていたかと思しますので、資料費については年々もう本当に削られて少なくなっています。財政状況を考えると仕方ないのかもしれませんが、やはり資料費というのは図書館の「命」に繋がるところなんです。「行っても新しい本が無いわ」「行っても汚い本しかないわ」ということになる、もう誰も来なくなってしまいます。資料費の確保という点では、何とか上向きに確保していく方向を探っていただきたいと、切に願うんですけども。

新しい建物は建ったけれども中身は空っぽ、というような、空洞化と言いますか、空しい状況に陥らないためにも、新しい図書館を建てるとなると、一から資料も要ると思いますし、その辺り資料費の確保について、いかがなものでしょうか。

大谷館長 年々、資料費が減少しているのです、それに対する予算確保というご要望を頂きましたが、事実、その数字のとおりで毎年マイナスシーリングという予算状況でございます。これは図書館だけではなく、市全体の傾向です。

以前、平成13年度前後に高かったというのは、一つは志紀・山本図書館の開館の影響がございます。出来て数年の内に、一定の資料数を確保しなければならないということで、右肩上がりの数字になっていた訳です。ところがその後数年経ちますと一転落ち着いてきたという経過もあり、そこへ加えてこのマイナスシーリングによって、余計に下ってきているんですが、ただ、一定数の資料は揃えて、更新できるものについては現在の予算の中から購入し、揃えていくといった状況でございます。

我々としても、これ以上余りに右肩下がりになっていきますと、これはまた利用者にとって不利益であるとの認識もありますので、出来るだけ今の予算を維持できるような形で努めていきたいと考えております。

井上会長 建替えて新築になる訳ですから、その分は別枠でまた要求してもらって、頑張っていたきたいと思います。

他にご意見ございませんか。

よろしいでしょうか。

それでは、事務局から「その他報告事項」をお願いします。

事務局(鶴田館長) それでは、平成22年2月15日付で、総合計画策定プロジェクトチームより、図書館協議会へ周知の旨、依頼のありました「八尾市第5次総合計画基本構想(行政案)の市民意見提出制度実施」について、概要をご報告させていただきます。

石田補佐 協議会全体宛に、1部しか資料が来ておりませんので、個々にはお配りしておりません。

事務局(鶴田館長) 本市ではこれまで、平成23年度から10年間のまちづくりの指針となる「第5次総合計画」の策定に取り組んでおりました。

この度「八尾市第5次総合計画における基本構想(行政案)」が作成され、この行政案についての市民意見募集すなわちパブリックコメントを、平成22年2月18日から3月17日までの期間で実施しております。対象者は、市内在住・在勤・在学又は事業を含む全ての人、及び市内に事業所を有する法人その他の団体でございます。

資料は、市役所本館の政策推進課、情報公開室、各出張所、緑ヶ丘コミュニティセンター、市民サービスコーナー、桂人権コミュニティセンター、安中人権コミュニティセンター、生涯学習センター、各図書館、社会福祉会館でございます。また、八尾市ホームページでも閲覧が出来ます。

応募方法等、詳細につきましては、資料一式を含め、こちらにございますので、ご応募される方がいらっしゃいましたら、協議会終了後に関係資料をご覧いただければと思います。

報告は以上でございます。

井上会長 今の報告につきまして、何かございますか。よろしいですか。

それでは、第16期の八尾市図書館協議会につきましては、特別な事情がない限り、本日の協議会を以って終了となります。

委員の皆様方におかれましては、八尾市立図書館の発展のため、数々の貴重なご意見、ご助言を頂き、また議事の進行にもご協力を頂きまして、有難うございました。

事務局におかれましては、協議会で出された意見等につき、充分、今後の図書館運営に活かしていただくよう、ご検討いただきたいと思います。

それでは、本日はこれで終わらせていただきます。皆様、有難うございました。